

Q 学校におけるICT の活用と今後

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



A 全体の底上げを図る

問 学習用端末の活用状況は。

答 学校では学習用端末を、調べ学習等の日々の授業で活用している。また現在、端末を自宅に持ち帰り、オンライン授業等にも取り組んでいる。

問 新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業をいつでも行えるような環境整備が必要であることを以前より申し上げている。現状は。

答 通信環境整備の支援策として、貸出し用のモバイル通信ルーターを用意している。また、通信の接続が困難な家庭には、情報教育環境運用支援員が問合せに応じ、必要な支援をする。

問 一部の学校では端末整備後も授業でほぼ活用されず、オンライン授業ができるか慌てて確認したと伺っている。今後の取組は。



学習用端末を使用した授業

Q 中学校における部活動 の現状と今後

たかはし けんじ
高橋 剣二 議員



A 活動の場を維持出来るよう 努めていく

答 現在、GIGAスクール推進委員会を立ち上げており、各学校に中心的な役割を担う教員がいる。また、ICT支援員等も活用しながら、全体の底上げを図っていききたい。

問 登校とオンラインを選択できるハイブリッド授業を。

答 柔軟に対応したい。

◎その他の質問 交通安全対策の推進について

問 過去10年ほどの各中学校の部活動数と在籍生徒数の変遷は。

答 平成23年度の1853人から徐々に増加し、29年度の1966人をピークに減少し始め、令和3年度は1754人となった。部活動数は69で、ほとんど増減はない。

問 部活動の在籍率と外部習い事の関係について。

答 部活動の在籍率は、23年度より令和3年度はわずかに増加している。芸術や文化、スポーツなど外部の習い事の幅も以前に比べると広がっている。

生徒が興味や関心を持って選んだ場を大切にし、自分の可能

性を最大限に伸ばしていけるようにすることが重要である。

問 他校や他市との合同チーム編成の考え方について。

答 合同チームは、生徒の選肢を広げる意味でも有効な手段となっている。市内の学校同士で編成した野球部が一つ、市外と編成したソフトボール部が一つあるが、今後も状況に応じてこの制度を有効に活用し、生徒の興味や関心に合わせて活動の場を維持出来るように努めていく。

◎その他の質問 鶴ヶ島市の交通安全対策について

